みわ塾　2007 年　東京の富士さん巡り　第 7 回

江戸川区のお富士さん‥‥もっともたくさん富士塚が残る地域！

江戸川区には私の知るところだけで 14 の富士塚がある。ここの地は近年急速に市街化が進み、区画整理がなされているので、たいていの富士塚は移転、移築されている。昔のままでなければ意味ないという方もおられるだろうが、移りゆく時代の流れのなかで、今はこうなっていることを知るのも、富士山巡りの楽しみなのではないかと思っている。今回は以下の七富士です。

■上鎌田富士‥‥‥瑞江駅近く、南篠崎天祖神社　四角の熔岩積み
■下鎌田富士‥‥‥瑞江駅近く　豊田神社　熔岩積み　柵がある
■今井富士‥‥‥‥旧江戸川沿いの香取神社　熔岩積み
■長島富士‥‥‥‥香取神社　この辺りは道が入り組んでいる。
■桑川富士‥‥‥‥桑川神社　環七に近い、分かりにくい。
■雷富士‥‥‥‥‥東西線葛西　真蔵院境内　神社にあった？　石碑多数
■中割富士‥‥‥‥東西線葛西　天祖神社　あたらしく移築

みわ塾　講座　　三輪主彦（みわかずひこ）
〒173-0023　板橋区大山町 33-6　090-9827-8340
ホームページ　http://kazmiwa.web.infoseek.co.jp/

上鎌田富士　下鎌田富士　新しく移転した熔岩積みの富士さん

江戸川区は広く、１日で全部回るのは難しい。今回は都営地下鉄瑞江駅から七富士参りを始めるつもりです。この駅は 1986 年開業の新しい駅で、それまではこの辺りの交通はバスのみで、けっこう不便なところでした。今区画整理がほぼ整い、昔の畑は住宅地マンションに変わっています。それに伴って神社も移転し、一緒に富士塚も移築されています。

■上鎌田富士　南篠崎天祖神社（江戸川区南篠崎町２－54）

瑞江駅前を北東側にしばらく歩くと南篠崎三のバス停にでる。そこを右に回ってしばらく行くと天祖神社にでる。この神社は南篠崎の鎮守さまで、昭和 45 年に建て替えられた神明造りの社殿を持っている。

この社殿の左手奥に上鎌田富士がある。そこの解説書には次のように書かれている。残念ながらもう丸星講という富士講はない。今の時期、天祖神社の氏子の皆さんが、境内で菊祭りをやっているので、お話を伺えるかもしれません。

昭和 58 年（1983）3 月登録
江戸川区登録有形民俗文化財・民俗資料

富士塚は、富士信仰の団体である富士講の人たちが、富士山の容姿をかたちどって築きあげた小高い塚です。富士山に登ったのと同じ霊験得られるようにと願って築かれました。

上鎌田の富士塚は、明治 19 年（1886）に旧上鎌田村の丸星講の人々が築造しました。塚の高さは約 1.5 メートルで、面積は広く、円墳に近い形をしています。頂上には、「浅間神社」の石祠がまつられています。区民の民間信仰、社会、文化、生活を知る上で、貴重な資料です。

平成 14 年 1 月　江戸川区教育委員会

上鎌田の富士塚　胎内巡りもある。

篠崎にはもうひとつ江戸川沿いに浅間神社という大きな神社がある。この神社は塚の上（たぶん古墳）に大きな社殿があり、お富士さんと親しく呼ぶのをはばかられる感じだ。しかし富士講の石碑が一基しかないで富士塚と言えるかどうか。

私はその浅間さまに回ることも多いのだが、その途中に、おもしろいものを見つけた。個人の家の中にある富士塚だ。天祖神社のものより大きく、塀の上に熔岩積みの山が１ｍほどつきだしているので、周りからも見える。

この辺りは富士信仰がさかんで、個人の家にもあったんだと、感動してそのお宅に

おじゃましてみた。家人は興味がないらしく、「おじいさんが勝手に作ったんですよ」と言い、邪魔だからどかしたいんだけど大きすぎて困っているとのことだった。石碑などはないので富士塚とは言えないが、他にも案外個人の住宅の中にも残っていることがありそうだ。しかしよその人がお参りをすることも出来ないので、もし本物の富士塚だとしても、そっとしておく方がよさそうだ。

■下鎌田富士　豊田神社（江戸川区東瑞江 1-18）

南篠崎の天祖神社の前の道を、瑞江三中を右手に見ながら戻ってくると、東部公園がある。その一角に豊田神社がある。

この神社の住所は、案内書には　瑞江 2-5　となっているが、区画整理が進み、東部公園の一角に移転してきたので、今の住所に変わっている。瑞江三中のバス停の前に真新しい鳥居が建ち、神明づくりの社殿もまだ新しい。

富士塚は社殿左手にあるが、柵があるので中には入れない。しかし柵越しに写真を撮ることは出来るが、後ろのマンションの洗濯物がどうしても画面に入ってしまうので、いい写真が撮れなくて困っている。

下鎌田の富士塚の説明を下にあげておく。

下鎌田の富士塚　　江戸川区登録有形民俗文化財（民俗資料）

富士塚は、富士信仰の団体である富士講の人たちが、富士山の容姿をかたちどって築きあげた小高い塚です。実際に富士山に登拝することの出来なかった人たちも、この富士塚を参拝すれば富士山に登ったのと同じ霊験があると信じました。

この下鎌田の富士塚は、大正 5 年、旧下鎌田村の下鎌田割菱八行講の人々によって築造されたと伝えられています。高さ 3 メートルで、全山全山ボク石（熔岩）でおおわれ、正面には「く」の字形の登山道がつくられ、中腹に石祠が祀られています。

塚の背面には大沢崩れを模したような所がありまた中腹左には小御嶽神社の石祠があります。　下鎌田割菱八行講は現在も盛んに活動し、7 月 1 日の山開き、8 月 28 日の火祭り、毎月の月並み祭りを行っています。

昭和 60 年（1985）3 月　江戸川区教育委員会

今井富士　旧江戸川ぞいの香取神社にある　お富士さん

下鎌田の豊田神社から今井の香取神社へは、篠崎街道に出た方がわかりやすいが、車が多いので私はいつも裏道を回っていく。区画整理がしていない場所には、案外いいお寺や神社が残っている。

■八雲神社

この神社の脇から篠崎街道にでる。この神社の手水鉢の紋がなかなかおもしろい。こういうのを「祇園守紋」という。祇園の八坂神社の紋で、真ん中の×印は筒なのだが、これを十字にみたててキリスト教と関係があるという人もいるそうだが、この神社では２本のきゅうりと見立てて、きゅうりをお供えするのだそうだ。考証家の説より、庶民の発想の方がおもしろくていい。

八雲神社の道路を挟んだ先に、鳥居が見える。水神社の鳥居で、昔の江戸川の土手なのだろう。

■香取神社（江戸川区江戸川 3-44）

浦安へ抜ける街道の今井橋の手前に香取神社がある。この辺りは道路の方が高く。神社へは少し下がる。社殿は水害に遭わないように、土台がかなり高くなっている。

旧今井村の総鎮守で、経津（ふつ）主命を祀っている。経津主命はアマテラスによって天から遣わされ、武甕槌(たけみかずち)命と二人で、出雲の大己貴命（大国主）と国譲りの交渉をする神様である。

武甕槌命は鹿島神宮(常陸一宮)の神として、経津主命は香取神宮（下総一宮）の神として、祀られている。平安時代には、神宮といえば伊勢神宮、鹿島神宮、香取神宮の三つしかなかったという重要な社なのだ。さらにちなみに藤原氏の氏神である奈良の春日大社はぜいたくにも武甕槌命、経津主命を祀っている。

■今井富士

香取神社の右裏手に今井富士がある。全山熔岩積みで、高さは 2.5mほど。登山路もつけられており登ることも可能だ。富士講の石碑や富士講中興の祖である食行身禄の碑もある。この辺りは水に浸かることも多かったようで、この富士塚もコンクリートでがっちり固められている。

神社の創建は古いが、この富士塚の築造は昭和 5 年（1930 年）と、案外新しい。富士講は江戸時代に盛んだったが、昭和の時代まで続いていたのだ。富士塚は熔岩を船で運ぶようになって、たくさん作られた。
今井富士の解説

昭和 58 年（1983）3 月登録
江戸川区登録有形民俗文化財・民俗資料
　香取神社境内の北側に富士塚と富士講の記念碑が建っています。
　今井の富士塚は、旧上今井村の上今井割菱八行講によって、昭和 5 年に築造されました。高さ 2.5ｍで、頂上に石祠をまつり、登山道の途中に「浅間神社」と刻んだ碑があります。そのほか、「元祖食行身禄」の碑や烏帽子岩、力石などを配しています。
　また富士塚のふもとには寛延 4 年（1751）建立庚申塔（青面金剛）があります。
　平成 14 年 3 月　江戸川区教育委員会

長島富士、桑川富士　　古い町並みに残る町のお富士さん

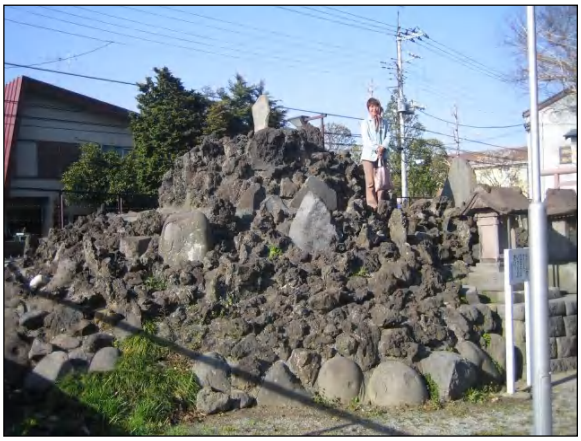
■香取神社へ（江戸川区東葛西 2-34）
　今井水門の先で旧江戸川と新中川が合流する。バスにのってコンクリートの堤防下を葛西方面に向かう。東葛西三のバス停でおりて、香取神社を目指す。この辺りは区画整理が進んでいないので、昔の名残を示すクネクネ道が多く、神社探しはオリエンテーリングのようで結構楽しい。

長島の富士塚
　昭和 58 年（1983）3 月登録
　江戸川区登録有形民俗文化財・民俗資料
　富士塚は、富士信仰の団体である富士講の人たちが、富士山の容姿をかたちどって築きあげた小高い塚です。富士山に登ったのと同じ霊験得られるようにと願って築かれました。
　長島の富士塚は、旧長島・桑川両村の山玉参拝講の人たちが、明治 41 年（1908）に造りました。現在の塚は大正 6 年（1917）に再築されたものです。塚の南側には、「御山築設之由来」と刻まれた碑が建てられ、由来と二百名以上の講員がいたことが記されています。
塚の高さは約４メートルで、区内の富士塚の中では規模が大きい方です。頂上には「浅間神社」と刻まれた石碑（明治 41 年銘）があり、上部はボク石（溶岩）、下部は丸い自然石で囲まれています。今でも 7 月 1 日の山開きと、8 月 26 日のかがり火たきの行事が行われています。
　平成 14 年 1 月　江戸川区教育委員会

香取神社はいくつもあるのでお富士さんある香取神社と聞いて、バス停から皆さん自分で探してください。300m以内にあるはずです。

境内には富士塚の解説板があるが、さらにこの地が葛西レンコンの産地だったというＪＡの看板もある。今はまったくの住宅地だが、昭和 40 年代までは湿地帯でレンコン造りには適した地であったという。この辺りには親水公園や浸水緑道がいくつもあるが、これは昔の水路後である。

■長島富士



頂上の石祠まで入れると高さは４ｍほどになり、今日の富士塚では一番大きいものである。山玉参拝講という富士講の人たちが、明治 41 年（1908）に作ったもので、大正 6 年に再築されたという。

今でも 7 月 1 日の山開きと､8 月 26 日の「かがり火」とが行われているそうだが、私はまだ見ていないので、来年はぜひその日を選んできてみよう。

江戸川の対岸の浦安にも熔岩積みのいい富士塚がある。この辺りは舟運が発達していたので富士の熔岩を運んで来やすかったのだろう。

ちなみに浦安の富士塚（東西線葛西の次の駅が浦安駅）

▲清瀧神社	浦安市堀江４	美しい富士山型	浦安駅から真南 5 分
▲豊受神社	浦安市猫実３	ごっつく立派	浦安駅から南東 10 分
▲稲荷神社	浦安市当代島３	石碑あり	浦安駅から北 10 分

■桑川富士（桑川神社　江戸川区東葛西 1-23）

長島富士の香取神社からすぐ近くに桑川神社がある。こんな近くに二つの富士塚が残っているのはめずらしい。山頂には浅間神社の大きな石碑がある。浅間は「せんげん」と読むのだが、むかしは「あさま」と読んだ｡現在あさま神社というのは、山梨県の一宮､浅間神社だけだそうだ。

この塚の石は「ボク石」であると書かれているが、ある所では黒ボク石ともある。地質学、農学ではクロボクは火山灰起源の黒土で、武蔵野台地の畑の土だ。しかし富士塚では黒ボク石と言えば富士の熔岩と言うことになっている。

富士塚の山麓を固めているのは丸い

石で、力石という。昔力自慢の男達がこれを差し上げ力比べをした。さし石とも呼んでいるようだ。重さは 100kg 以上ある。とても持ち上げられない。昔の人と力比べをしようなんて思わないことだ。

桑川の富士塚　昭和 58 年 3 月登録　江戸川区登録有形民俗文化財・民俗資料
　この桑川の富士塚は、昭和 4 年（1929）に旧桑川村の山玉参拝講の人たちが築造しました。高さ約２メートルの塚で、全体はボク石（溶岩）と丸石で覆われています。丸石の中には、力石も含まれています。塚の中腹には、昭和 41 年（1966）の記念銘のある石祠がまつられ、登山道は丸石の階段になっています。
　平成 14 年 1 月　江戸川区教育委員会

雷富士・中割富士　葛西にあるお富士さん。ともに移転した富士塚

■雷富士（いかずち）（江戸川区東葛西 4-38）
　東西線葛西駅の南側に２つのお富士山がある。清砂大橋からの通りは新しくできた道で現在は雷香取神社の前で行き止まりになっている。
　この神社の、隣に真蔵院（雷不動）というお寺がある。本殿の脇に鳥居があり富士塚がある。富士塚はたいてい神社の中にあるものだが、前に行った護国寺のように寺の中に鳥居が立っている例も多い。昔は神仏は混淆していたのだから、問題はないのだ！　高さは 2mほどだが、塚の脇に富士講・浅間神社の石碑が並んで建てられている。小さいがまあ立派である。この富士塚はもともとは隣の雷香取神社の境内にあり，もっと大きかったが、道路の拡張で神社が動き、富士塚は隣のお寺に引っ越ししたのだ。

■大般若祭り
　真蔵院では、毎年 2 月最終日曜日に天下の奇祭といわれる「雷（いかずち）の大般若」が旧雷町会（東葛西 4～7 丁目）で行われる。江戸末期にコレラが蔓延し、真蔵院の和尚が大般若経を背負って家々を回ったところ､被害がなかったことから始まった。女装するのは、結核にかかった妹のために、兄が妹の長襦袢を着て厄払いをしたからという。私はまだ見たことないので来年こそ行ってみるぞ！

■中割富士（江戸川区東葛西 7-18）

天祖神社境内にある。この神社は旧東宇喜田村中割の鎮守で、神明社だったが、明治５年に天祖神社になった。区画整理に伴って平成元（1989）年、東葛西９丁目から移転。富士塚は昭和初年に丸葛・葛西講によって旧天祖神社境内に築造されたものだが、神社の移転にともなってここに移築された。

高さは３ｍほどで、直線状の登山道が上に続いており、登ることも可能。熔岩積みで立派。裾野の丸い石は昔地元の青年達が力くらべをした力石である。

■今回は、上鎌田富士、下鎌田富士、今井富士、長島富士、桑川富士、雷富士、中割富士の「七富士参り」をしました。これは私が勝手に選んだ江戸川区の七つのお富士さんだ。勝手に選んでいいのかと言われそうだが、いまはもう富士講もなくなっているので、勝手に選んでもだれにも文句は言われることはない。

先日七福神を奉っているお寺でうかがったら、「ちょうどいい距離にあるお寺が集まって、それぞれの七福神を奉っているんだよ。お寺でも神社でもなんでもいい」との事だった。そのお寺は七福「神」ではまずいので、七福「人」にしているそうだ。宣伝している七福神でもそんなものだから、自分たちが勝手に「七富士参り」に参っても問題ないだろう。

■降水確率は 50％だから、今日はたぶん雨でしょう。それでも瑞江の豊田神社と今井の香取神社ぐらいは見ることができます。ひどい雨だったら、そのあとバスで江戸川区役所のグリーンパレスで「富士講と富士信仰」のビデオを見ようと思います。

■次回　12 月 29 日（土）　10:00　京浜急行新馬場駅（品川よりの出口）集合

まず新馬場駅前の品川神社に行きます。ここの富士塚は 10m近い。レインボーブリッジなどの景気は大変いい。そこから京浜急行羽田線の大鳥居駅。羽田神社の富士塚を見学する。蒲田まで戻り東急多摩川線で多摩川駅へ。ここで多摩川浅間神社、これは巨大、を見学する。ここから本物の富士山を見て、2007 年をふり返り、2008 年を思う事にします。